

施策No.	政策名	生きがいを育む学びのまちづくり	主管課	生涯学習課	主管課長名	
2-2	施策名	生涯学習・芸術文化活動の推進	関係課	学校教育課、文化財課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
	市民	①桜川市人口	見込値	人		37,653	37,269	36,885	36,500	35,897
実績値						37,653	36,794	36,120		
見込値										
				実績値						
施策の意図		成果指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
生涯にわたって自ら学び、学びあっている。		①日頃学習活動をしている市民の割合	%		目標値	25.1	27.5	30.0	32.5	35.0
					実績値	26.0	21.3	25.2		
		②公民館・集会施設等の年間利用者数(R4から新規)	人	目標値	94,000.0	95,000.0	113,000.0	138,000.0	150,000.0	
				実績値	43,846.0	66,029.0	62,533.0			
	③図書館・室の年間利用者数	人	目標値	30,600.0	31,100.0	60,000.0	80,000.0	100,000.0		
			実績値	9,193.0	8,404.0	13,134.0				
			目標値							
			実績値							
			目標値							
			実績値							
成果指標設定の考え方	「生涯にわたって自ら学び、学びあっている」成果指標は、①「日頃学習活動をしている市民の割合」を市民アンケート結果を採用。②③は各社会教育施設の利用者数データを採用する。									
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①日頃学習活動をしている市民の割合は、市民アンケートより求める。②公民館の年間利用者数は、各公民館の利用実績の合計より求める。 ③図書館・室の年間利用者数は、真壁図書館・改善センター(R6.8まで)・大和中央公民館図書室(R6.8月まで)・桜川市立図書館(R7.2月から)の利用者の集計より求める。									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景要因	日頃学習活動をしている市民の割合について、令和5年度実績値21.3%に対し25.2%と3.9%増加した。目標値には届いていないが、コロナ禍を経て、自分自身を高める活動や健康維持のため、生涯学習に取り組む市民が増えたと思われる。 公民館利用者は令和7年2月に生涯学習センターが開館したが、2か月しか利用がないことに加え、岩瀬中央公民館が閉館していること、大和中央公民館が耐震補強工事(予定)に伴い令和6年10月から休館したことにより、昨年度より利用者数が減少した。 図書館・室の年間利用者数については、令和7年2月に桜川市立図書館が開館したことにより貸出者数が増加した。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った	
背景要因	①日頃学習活動をしている市民の割合について、目標値30.0%に対し25.2%と4.8%下回った。 ②公民館の年間利用者数については、113,000人の目標値に対し、62,533人であり、目標値を大幅に下回った。 ③図書館・室の年間利用者数についても、60,000人の目標値に対し、13,134人と大幅に下回った。 目標値を大幅に下回った要因としては、岩瀬中央公民館の閉館及び大和中央公民館の休館が大きく影響している他、児童生徒の電子図書館利用が活発なことが考えられる。		

3. 施策の成果実績に対する総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対する総括	今後の課題・方針
生涯学習・芸術文化活動の推進事業において、貢献度の高かった事業・成果向上の余地が高い事業は下記のとおりである。 ・シニアスクール事業・・・65歳以上の市民を対象とし、年6回(スマホ教室、脳トレ教室、ポッチャ競技教室 等)の教室を実施した。各教室とも大変好評で、参加者は年々増えている。 ・電子図書館システム運用事業・・・24時間提供可能な非来館型図書館として、多く利用されている。また、学校でも活用いただくよう毎年、新入生へID・パスワードを配布している。(提供事業者からは全国でも上位の利用を維持していると聞いている) ・桜川市生涯学習センター管理運営事業・・・生涯学習センター・図書館・支所機能を併設する施設として、令和7年2月に開館した。開館後は、指定管理者による管理運営を実施している。	生涯学習センターが開館し、指定管理者による管理運営が開始され、民間事業者のノウハウによる事業展開が期待されている。 図書館条例に基づく図書館として生涯学習センター内に桜川市立図書館を開館した。利用しやすい図書館、利用者へ寄り添った図書館サービスを提供できるよう、市立図書館、真壁図書館と連携を図っていく。またデジタルアーカイブや電子図書館を活用した学習活動等について学校と連携して実施できるよう進めていく。 各種定期講座について、改善センター、真壁伝承館、生涯学習センターで実施しており、市民の学習や交流の場として、生きがいを持って活動できる拠点となるよう支援をする。